

大学院学術研究集会 (第2回) 報告

大学院スポーツ健康科学研究科
研究科長 形本 静夫

研究活動の活性化は、大学院におけるブランディングに不可欠であることから、23年春より国内の著名な研究者を招待して、学術研究集会を実施している。

本年度は、研究者でもあり、現場の指導者(陸上競技)でもある筑波大学の関子浩二先生を迎えて、先生がライフワークとして取り組んでおられるプライオメトリック・トレーニングについて、その理論的背景と実践について、これまでの豊富な研究成果をもとに解説していただいた。

当日は教員・大学院生を中心に約40名の参加があり、先生の講演に耳を傾けるとともに、活発な質疑応答が行われ、瞬く間に予定の60分間が過ぎてしまった。

講演終了後は、関子先生を囲んで懇親会が開かれ、参加した大学院生の多くが、研究について先生との話し合いの機会を持つことができたことは、大変嬉しいことであった。

なお、関子先生は24年4月より、筑波大学陸上競技部監督に就任されることになっている。

記

日時 平成23年7月28日(木) 研究科委員会終了後(午後5時~6時)

場所 45番教室

演題 プライオメトリック・トレーニングの理論と実践

演者 関子浩二先生

(筑波大学人間総合科学研究科准教授, 陸上競技部跳躍コーチ)

関子先生のプロフィール

1) 学歴

筑波大学体育専門学群卒, 筑波大学大学院体育科学研究科修了
1995年, 博士(体育科学)

2) 職歴

1995 筑波大学体育センター準研究員

1996 鹿屋体育大学助手

同助教授・准教授を経て

2007 鹿屋体育大学教授

2009 筑波大学人間総合科学研究科准教授

3) 研究分野

Stretch-Shortening Cycle 運動

プライオメトリックス

コーチング

トレーニング

4) 研究業績 (受賞のみ)

2009年 第22回日本トレーニング科学会賞

2007年 平成19年度日本体育学会奨励賞

2007年 第19回日本トレーニング科学会賞

2004年 第18回日本バイオメカニクス学会奨励賞

2002年 第14回日本トレーニング科学会賞

1997年 第9回日本トレーニング科学会賞

以上